

県政この一年



平成26年は、福井県の未来への可能性が飛躍的に高まった1年でした。高速交通網の整備が大きく進み、子どもたちや若者が活躍するなど、これから10年の更なる発展の基盤が整いました。幸福度日本一など高い評価を受けた福井県。年末を迎えるにあたり、今年の県政の動きを、「福井新々元氣宣言」の4つのビジョン「元氣な産業」「元氣な社会」「元氣な県土」「元氣な県政」に沿ってご紹介します。

元氣な産業

観光とスランドを産業の柱に

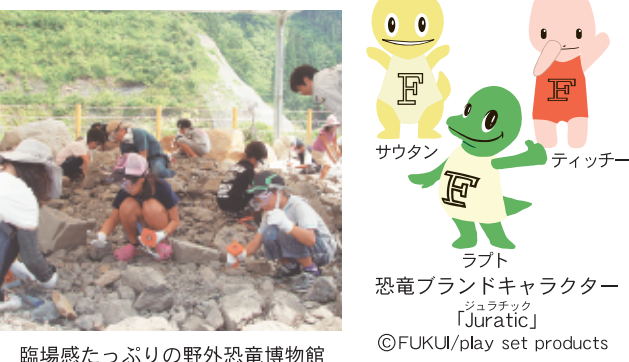
ダントツブランド 恐竜が大人氣

昨年度の入館者数が過去最高となった恐竜博物館。大都市のデパートや水族館とのコラボにより、今年も順調に入館者が増えています。

7月にオープンした野外恐竜博物館は、本物の恐竜化石発掘現場を目の前にした化石発掘体験や実物化石の見学が人気を呼び、夏休み中は予約がほぼ満員に。

また、発掘調査では、貴重な恐竜や翼竜の足跡化石などが発見されました。

さらに、恐竜ブランドキャラクター「Juratic」を制作し、新たな魅力を加えました。



臨場感たっぷりの野外恐竜博物館

優れた和食文化を継承・発信

地元の伝承料理を取り入れた学校給食を提供したり、和食の基本である出汁の取り方を家庭科で学ぶなど、和食文化を子どもたちに伝える活動を進めています。

また、全ての小学一年生に越前塗や若狹塗の箸を配布し、実際に使うことにより伝統工芸の良さを分かってもらうなど、和膳を普及しています。

来年は、食がテーマのミラノ国際博覧会に福井県ブースを出展し、優れた食文化を世界に発信します。



越前漆器と塗り箸で給食

観光客に魅力をアピール

北陸新幹線金沢開業を目の前に、首都圏等からたくさんの観光客を呼び込もうと、東京スカイツリーで「恐竜王国 福井」をPRしたほか、福井の空の玄関口 小松空港に、動く恐竜ロボットを設置しました。

また、わが国最大の戦国城下町の遺構がまるごと残る一乗谷朝倉氏遺跡では、無電柱化を進めたり、山城への登山道の整備、遺跡を見渡す「月見やぐら展望所」のオープンなど、レベルアップが進んでいます。

今後は、金沢駅に福井県の観光コンシェルジュを配置したり、福井駅西口への動く恐竜造形物の設置や、駅舎への恐竜イラストのラッピングなどにより、福井の魅力をPRします。



後継者を育てる伝統工芸職人塾

技術と戦略で勝ち抜く福井の産業

ものづくりの技を伝える

越前漆器など、5つの伝統的工芸品の産地が集まる丹南地域で「越前ものづくりの里プロジェクト」を開始。後継者を育てる職人塾を開設したり、工房の見える化や散策マップの作成などを進め、ブランド力やPR力アップにつなげます。

また、長年県民に親しまれ、生活を支えてきた製品や製造設備、技術を「ふくい手しごと・産業遺産」に認定し、保存・継承を進めています。

海外展開への支援

東南アジアにおける県内企業の事業展開を支援する「ビジネスサポートセンター」を、タイのバンコクに開設しました。日系企業や現地企業とのマッチングを応援したり、タイの消費者への地酒や食品、工芸品等の販売拡大をバックアップ。また、東南アジアからの観光客を増やすため、現地の旅行代理店への営業活動を強力に展開します。

新しい方向をひらく農林水産業

おいしい福井米を全国PR

福井県産コシヒカリが、食味ランキングで2年連続「特A」を獲得するなど、高い評価を受けています。さらなる品質向上を目指し、田んぼの稲わらを肥料にする「秋の田起こし運動」を新たに実施したり、コシヒカリを超える「ポストこしひかり」の開発を進めています。

また、コシヒカリの全国作付面積日本一30周年を記念した全国キャラバンや、全国の研究者や生産者を集めた「コシヒカリ一族サミット」により、福井米の美味しさをアピールしました。

農林水産物の生産を拡大

3月に策定した「ふくいの農業基本計画」に基づき、園芸生産の即戦力となる人材を育てる「ふくい園芸カレッジ」を開校。県内外の研修生が、生産から販売までを自ら行う、実践的な研修を受けています。来年度から定員を増員し、首都圏からの誘致活動を強化しています。

大野市では、県内初の本質バイオマス発電施設の建設が決まり、利用されていない間伐材の活用が可能になります。また、新鮮でおいしい魚を安定して供給するため、美浜町日向に新しい定置網を設置し、冬場の漁獲量を増やしています。



全国にコシヒカリのふるさと福井をPRしたキャラバン隊

元氣な県政

「希望ふくい」のふるさとづくり

人口減少に歯止めを

人口減少を食い止めようと、県庁内に人口減少対策推進本部を設け、独自の政策の検討を進めてきました。10月からは、首都圏に住む福井出身の女性から、Uターンしなかった理由などを直接聞き取っており、今後の対策に活かしていきます。

また、福井の企業について学ぶセミナーを開き大学生のUターン就職を応援したり、県内企業で活躍する女性を「ふくいの就活女子応援員」に委嘱し、県内外の女子学生に福井で働くことの魅力をPRしています。

国に対しては、出生率の高い地方に人と企業の移転を進めるため、東京と地方で法人税の負担に差を設ける「ふるさと企業減税」の実現を求めています。

地域の魅力をレベルアップ

歴史や文化などを活用した地域づくりを応援する「ふるさと創造プロジェクト」を展開。拠点施設の整備費用や誘客のためのイベント費用などを支援し、県の職員が市町や地域住民と一緒に計画づくり等に参加しています。

今年、勝山市では地元特産品を扱うカフェが、大野市では化石の魅力を体感できる温泉施設「平成の湯」がオープンするなど、整備が進んでいます。

国体めざす県民スポーツ、生活のなかを楽しむ県民文化

競技力アップ、盛り上がる機運

今年の長崎国体では、天皇杯17位と、目標の10位台を達成。また、敦賀気比高校が甲子園ベスト4入り、バドミントンの山口茜選手が世界ジュニア選手権や全日本選手権で優勝するなど、多くのスポーツ選手が活躍しました。



国体をPRするマスコットユニット「Dinoはびねず」

平成30年の福井しあわせ元気国体に向け、スーパーアドバイザーの派遣や、雪がない地域での実戦練習など強化策を講じたり、県外の有望選手に県内企業への就職を働きかけるなど、さらに競技力を向上し、優勝を目指します。

今月は、様々なスポーツを体験できるスポーツフェスタを開催。マスコットキャラクター「はびりゅう」の兄弟たちが登場しました。ここで発表した新しい県民歌や国体・大会ダンスと一緒に歌って踊り、福井国体を盛り上げましょう。

また、福井国体の2年後には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。この機会に、国際交流や観光誘客の促進、県産品や食材などのPRと販路拡大、キャンプ誘致活動などの対策を進めています。

つながる！高速交通ネットワーク

若狭さとうみハイウェイで嶺南と嶺北が一体化

7月に若狭さとうみハイウェイ（舞鶴若狭自動車道の県内区間の愛称）が全線開通しました。

嶺南の主要観光地への観光客が2割も増えたり、子どもたちが遠足等で交流しているほか、県外の企業が工場進出を決めるなど、人とモノの流れが活発化しています。

開通に合わせて実施した「海湖と歴史の若狭路キャンペーン」では、嶺南初の大規模な恐竜展や、秘仏の特別公開、旧北陸本線トンネル群などを巡るバスツアーなどを実施し、嶺南への誘客を拡大しました。

この効果を冬から春につなげるため、「若狭路冬・春キャンペーン」を1月10日から実施します。

近くなった嶺南に、ぜひお出かけください。



全線開通した若狭さとうみハイウェイ

北陸新幹線の早期開業

来年3月14日、金沢まで開業する北陸新幹線。いよいよ次は敦賀までの開業です。既に工事に着手している新北陸トンネルに加え、福井市内では、全国初の新幹線と道路との一体橋となる九頭竜川橋りょうの工事を年度内に契約するなど、工事を着実に進めています。

本県が要望している敦賀開業の3年前倒しの実現を政府・与党に強く求め、1日も早い敦賀までの開業を目指します。

中部縦貫自動車道の整備が進む

中部縦貫自動車道の福井北・松岡間が、来春までに開通して北陸自動車道とつながり、利便性が大きく向上します。

また、平成28年度には福井北・大野間が全線開通し、県内の主な市や町が高速道路で結ばれます。

今後も、大野・大野東間の27年度事業化と、北陸新幹線の敦賀開業にあわせた中部縦貫自動車道の県内区間全線開通を、関係機関に強く働きかけます。

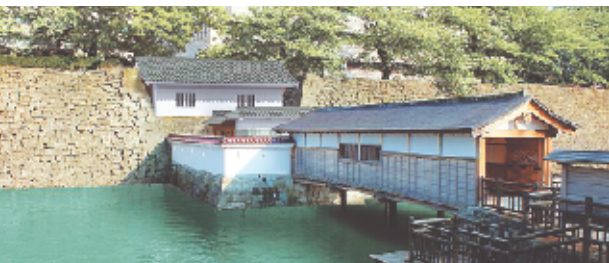
元氣な県土

県土に活気の高速交通時代

県都のまちづくり

「県都デザイン戦略」にもとづき、幸橋のたもとに由利公正広場を整備したり、福井城址の御廊下橋に続く山里口御門の復元を進めています。

御門の整備には、ふるさと納税制度を活用し、石瓦や壁板への寄付を募集しており、寄付した方は、名前などを残すことができます。次世代に誇る立派な御門の復元に、ご協力ください。



山里口御門の復元イメージ

原子力の安全対策を見直し信頼へ、研究開発で貢献

エネルギー政策を具体化

今年4月に閣議決定されたエネルギー基本計画では、原子力が「重要なベースロード電源」と位置付けられました。

西川知事が委員を務める国の調査会では、原発の重要性や再稼働の必要性を政府が国民に強く説明・説得し、理解を得る必要があること、原発の運転と廃炉は一体・一連のものであり、更地化までの長期の安全確保と新しい地域対策のための法的措置が必要であること、使用済燃料の中間貯蔵施設の県外立地が進むよう国が積極的に関与することなどを主張しています。

政府に対して、エネルギーベストミックスの早期策定など、責任あるエネルギー政策を揺るぎなく実行するよう求めています。

全国に先駆けた防災訓練

8月に、過去最大規模の原子力防災訓練を実施しました。避難範囲を、高浜原発から30km圏に拡大。全国で初めて、ゲート型モニターを使ったスクリーニング・除染訓練や、学校、病院、福祉施設が個別に作成した計画に基づく避難訓練などを行いました。今後も、実践的な訓練を積み重ね、防災対策をさらに充実させます。

元氣な社会

すぐれた医療と支えあいの福祉

新たながん治療が可能に

仕事や家事で忙しい女性が、がん検診を受けやすいよう、新たに「休日レディースがん検診」を県内各地で実施しています。

県立病院の「陽子線がん治療センター」では、新しい治療室がオープン。CTスキャンを用いた位置決めや、がんの形に合わせ陽子線を照射する世界初のシステムを導入し、より精度が高く、副作用を抑えた治療が可能になりました。

さらに、乳がんを陽子線で治療するため、大手下着メーカーの協力を得て、乳房を固定する器具を製作。新たな治療法の確立に向けて、臨床試験を開始しました。



福井で生まれたコウノトリたち

水月湖では、新たに「年縞」のコアを採取。国内外の先進的な研究に活用し、福井の宝として教育や観光に活用します。

また、コウノトリのヒナが、50年ぶりに福井で誕生。地元の方々に温かく見守られ、元気に成長しています。

日本のモデル「福井の教育」

福井の教育に全国が注目

毎年、全国から1500人を超える教育関係者が視察に来るなど、福井の高い学力が注目されています。

10月には、福井の教育について書いた本が出版され、同時に開催した「福井教育フォーラム」には、700人を超える参加者が集まりました。

若者のチャレンジと女性の活躍を応援

頑張る若者と女性たち

「ふくい若者チャレンジクラブ」では、若狭さとうみハイウェイの開通を機に「嶺南盛り上げ隊」を結成。嶺南の活性化のため、協力してイベント等を開催しています。

また、ユー・アイふくいの「女性活躍支援センター」が6月にリニューアル。育児休業からの復帰や再就職、保育所選びなどワンストップで相談できるようになり、子育てでも仕事も頑張りたい女性をサポートしています。



今年で結成3周年を迎えたふくい若者チャレンジクラブ

結婚・子育てのサポートが充実

地域の縁結びさんによる出会いづくりや、婚活のためのスキルアップセミナーなど、結婚支援策を進めています。

子育てについては、育児短時間勤務から、安心して次の子を出産し育児を取得できるよう、全国で初めて、国の育児休業給付金への上乗せ制度を設けました。このほか、第3子以降の保育料無料化など、本県独自の充実した支援により、子育て先進県として評価されています。

教育・文化施設をレベルアップ

海浜自然センターがリニューアルしたり、若狭歴史博物館がオープンし、来館者が大幅に増えています。

県立美術館の「真宗の美」展では、新発見の『親鸞聖人坐像』など、県内の真宗寺院の貴重な文化財を紹介しました。

来年2月1日には、県立図書館内に、福井ゆかりの作家や作品を紹介する「福井県ふるさと文学館」をオープンします。ぜひ、文学を通してふるさとの魅力を再発見してみませんか。